

令和5年6月30日

内子町環境マネジメント推進本部長
内子町長 小野植 正 久 様

内子町環境マネジメントシステム監査チーム

主任監査委員 小野 甲枝美

副主任監査委員 多比良 康彦

副主任監査委員 片倉 明子

数値目標監査結果報告書

令和4年度内子町環境マネジメントシステムにおける数値目標の監査結果について、以下のとおり報告します。

1. 監査日時 令和5年6月28日(水)午後3時30分～午後5時5分
2. 監査場所 内子町役場本庁 第3会議室
3. 監査内容 数値目標(令和4年度実績)監査

4. 監査結果

ステージ	目 標	達成 状況	評価	
ホップ	A103	電気使用にかかる温室効果ガス排出量を、2019 年度比で 3.2%以上削減します。	○	○
	A104	公用車等の燃料使用にかかる温室効果ガス排出量を、2022 年度までに、2019 年度比で 5.5%以上削減します。	○	
	A105	公用車の走行にかかる温室効果ガス排出量を、2022 年度までに、2019 年度比で 0.6%以上削減します。	○	
	A106	その他燃料使用にかかる温室効果ガス排出量を、2022 年度までに、2019 年度比で 5.5%以上削減します。	○	
	A107	公共事業における省エネルギーに関する環境配慮率を、90%以上にします。	○	
	A108	コピー用紙等の使用量を、2025 年度までに、2019 年度比で 2.5%以上削減します。	○	
	M107	環境や環境マネジメントシステムにかかる職員研修を年 1 回以上開催します。職員はこれに積極的に参加し、その内容を理解します。	○	○
	M112	ホップステージの取組項目や目標について、監査を年 1 回実施します。	○	
	G104	環境に関連する情報を、広報や HP で年 50 件以上提供します。	○	○
ステップ	A205	内子町環境基本計画にかかる事業の達成度を示す指数および数値目標の達成率を 70%とします。	○	○
	A206	内子町環境基本計画にかかる独自の数値目標を各部署で設定・実施し、その達成率を 90%とします。	○	
	M206	内子町環境マネジメント推進本部会議を年 2 回開催し、評価・見直しを行います。	○	○
	M207	ステップステージの取組項目や目標について、監査を年 1 回実施します。	○	
	G203	環境に関する施策・事業計画等について、町民との意見交換の場を年 20 回以上設けます。	○	○
ジャンプ	A302	うちエコに賛同し実践する事業所等を 3 つ以上設け、公表します。	×	△
	A305	エコロジータウン内子のまちづくりを推進するため、環境団体等が主体となって、勉強会を年 1 回開催します。	○	
	A307	えひめ AI-1 の利用促進を図るため、環境団体の主催で農業分野における実践活動を他団体と連携して 1 つ行います。	○	
	A308	環境団体が主体となり、環境に関する実践活動を、他団体と連携して 15 回以上開催します。	○	○
	M304	ジャンプステージの取組項目や目標について、監査を年 1 回実施します。	○	
	G302	町民や事業者、団体、自治会等の環境への取り組みについて、年 1 回は広報で紹介するとともに、年次報告書に掲載し公表します。	○	
	G303	住民、団体等による主体的な活動を 5 種類以上サポートします。	○	

達成状況：○ = 達成、× = 未達成

評 価：○ = 良好、△ = 改善要望、× = 勧告

5. 所見

9つの評価項目について「○」(良好) = 8つ、「△」(改善要望) = 1つ、「×」(勧告) = 0となり、令和3年度と比べて「○」が2つ増え、「△」が2つ減りました。

令和4年度は、エネルギー使用にかかる温室効果ガスの排出量削減を目指す項目をはじめ、ほとんどの項目で目標を達成することができていました。

唯一の「△」評価は、ジャンプステージのエコアクションにかかる目標です。4つの項目のうち、A302「うちエコに賛同し実践する事業所等を3つ以上設け、公表します。」の達成状況が「×」となりました。コロナ禍以降、企業に対して新たな呼びかけが行えておらず、また企業内においても換気や消毒の徹底など、エコの実践が難しい状況にあることは理解しています。社会状況の変化を踏まえ、うちエコの取り組みなどについて町から積極的に情報発信を行い、企業内での理解促進や実践につなげるなど、数値目標の見直しも含めて改善を要望します。

また、環境基本計画の独自目標が昨年と全く同じで、同じことをして、目標を達成できたと自己評価していた部署が多く、取り組みがマンネリ化している傾向もうかがえます。各目標を見直し、ステップアップしてほしいと思います。

全体的に言えることですが、目標の基準年度がコロナ禍前の2019年度であり、コロナ禍でイベント自粛、オンライン会議の定着等で、各エネルギー使用量が減少してきましたが、影響を受けなくなる今年度以降は、再び増加して、目標達成が困難になることも予測されます。

長年にわたり取り組みを続けてきており、これ以上のステップアップが難しい部分もあるかと思いますが、温室効果ガスの排出量削減にかかる国の目標値がより厳しく見直されたことで、今後は町の目標値も見直しが求められています。

コロナ禍を経て、社会環境が変わったとことで、新しい対策を打つことができる面もあるかと思っています。いま一度、町民に働きかけ、町民を巻き込んだ全国的に注目される環境の取り組みを進めてほしいと思います。